

平成 21 年度 病害虫発生予察注意報 第 2 号

病害虫名： べと病

対象作物： ネギ

1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 作物名 ネギ
- (3) 発生量 多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 本年の 11 月下旬以降、都内全域のネギ圃場（ワケネギ圃場を含む）において、ネギべと病の発生が確認された。12 月以降も降雨後に高温となる日が続くなど発病に適した気候条件が続き、発生が増加している。また、ワケネギでは作期の関係で例年ではべと病の発生がほとんどなかったため、本病と認識されず防除が遅れているケースがある。
- (2) 本病の主な症状は、まず葉が黄白色のぼやけた退色病斑を生じ、灰白色の薄いかびを生じる。病斑と健全部との境目は不明瞭で、症状が進めば灰白色状葉枯れとなり枯死する（日本植物病害大辞典）。
- (3) 本病は平均気温が 15～20 で、降雨が続く場合に発病が多いとされる。今秋の天候は、降水量が 10 月に 298.5mm（平年値 153.3mm）、11 月に 121.5mm（平年値 93.0mm）と多く、12 月の降水量は 14 日現在で 68mm と平年値（35.9mm）をすでに上回っている。平均気温は 10 月に 17.4（平年値 16.8）、11 月で 11.9（平年値 11.2）と平年より高く、12 月に入ってから平年値を越える日が多く、これらが多発生の要因として考えられる。また、圃場は引き続き過湿状態にあるため、今後も本病の発生に注意が必要である。

：観測地：東京都府中市 気象庁気象観測所

3. 防除対策

- (1) 表 1 を参照し、登録薬剤を早期に散布する。展着剤を加用し、薬剤が満遍なく付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 罹病葉は伝染源となるので放置せず、園外へ持ち出して適切に処分する。
- (3) 肥切れを起こさないよう適正な肥培管理を行う。
- (4) 露地ワケネギ圃場では、雨よけビニル被覆後の被覆内部の高温多湿に注意する。
- (5) 今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

4. 参考文献

岸國平 編（1998）日本植物病害大辞典 521p

表1 本病に対する主な登録薬剤(作物名:ネギ)

薬 剤 名	使用時期/使用回数	希釈倍率
アミスター20フロアブル	収穫3日前まで/4回以内	2,000倍
ジマンダイセン水和剤	収穫30日前まで/3回以内	600倍
アリエッティ水和剤	収穫3日前まで/3回以内	800倍
ダコニール1000	収穫14日前まで/2回以内	1,000倍
ランマンフロアブル	収穫3日前まで/4回以内	2,000倍
リドミルMZ水和剤	収穫30日前まで/3回以内	1,000倍



図1 ベと病の菌叢



図2 ワケネギにおける病徴



図3 罹病後期の病徴



図4 ベと病菌の分生子柄と分生子

.....
 防除所ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>
 テレフォンサービス042 (525) 8407
 - 今後の予察情報にご注意下さい -
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp